

こどもの夏風邪

声なき感染症を知る

◆61◆

県感染症情報センター

そろそろ暑くなってきました。感染症は寒い時期だけ流行するわけではなく、夏の時期にはこどもを中心に、いわゆる「夏風邪(なつかぜ)」が流行します。今回はこどもの夏風邪の特徴や予防法についてお話しします。

▽こどもの夏風邪

夏風邪で患者が多いのが、「咽頭結膜熱(プール熱)」、「ヘルパンギーナ」、「手足口病」です。三つともウイルス感染症で、咽頭結膜熱はアデノウイルス、ヘルパンギーナと手足口病はエンテロウイルス属のウイルス(エンテロウイルス、コクサッキーウイルス等)が原因で起こります。これらのウイルスには、たくさんの種類(血清型)があり、一度感染してもその血清型にしか免疫はできないため、血清型が変われば何度も感染します。ワクチン及び抗ウイルス薬はありません。

くしゃみなどのしぶきを受けて感染する飛沫(ひまつ)感染と接触感染によつて広がります。接触感染には、患者と直接の接触のほか、患者が触った物を触ること(間接接触)でも感染し

ます。排便後やおむつを交換した後は、石けんによる手洗いを心掛けます。なお、アルコール消毒は効果がありません。次亜塩素酸ナトリウムや煮沸による消毒が必要です。

▽咽頭結膜熱(プール熱)

咽頭結膜熱は名前のとおり、喉(咽頭)が腫れて痛み、目が結膜炎で充血し、高熱が出ます。5〜7日の潜伏期

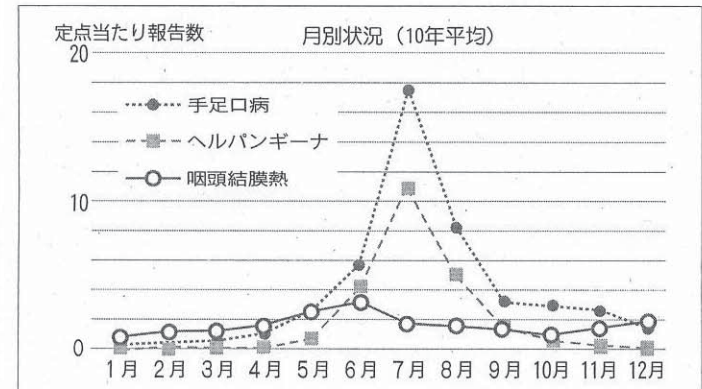
プール熱や手足口病 流行時期は手洗いを

おもちゃや食器(コップ・スプーン)、タオルの共用で感染が広がります。例えば、母親が上の子の鼻を拭いた手を洗わないまま下の子に触ったり、下の子にうつります。また、電車のつり革やエスカレーターの手すりなどを触ることも感染しますので、成人も流行時期には手洗いを心掛けましょう。

間後、発熱から始まることが多く、熱は5日程度続きます。プールの水から感染することもあるため、プール熱とも呼ばれ、夏に患者が増えますが、一年中流行しています。アデノウイルスの感染症のうち、三つの症状がそろった場合が咽頭結膜熱で、結膜炎だけの場合は「流行性角結膜炎(はやり目)」、熱と喉の腫れの場合には「アデノウイルス感染症」と区別されています。ウイルスの血清型や

人により症状はさまざまですが、小児にとつてアデノウイルスは何度も感染する注意すべき重要なウイルスです。▽ヘルパンギーナと手足口病ともに、エンテロウイルス属のウイルスによる疾患です。ヘルパンギーナは、2〜4日の潜伏期間の後、突然の高熱の後に喉が痛み、口の中に小さい水疱性の発疹が出現します。この水疱が破れて痛むので、水も飲めなくなり脱水症状を起こすこと

もあり、注意が必要です。手足口病は名前のとおり、3〜5日の潜伏期間の後、手のひら、足の裏、口の中に水疱性の発疹が出ます。手足口病は、通常は発熱も高くない、比較的軽いですが、近年、高熱が出て、口の中や手足の全体に水疱性の発疹が出るという、ヘルパンギーナと混ざったような重症の手足口病が流行する年があります。



▽今後の流行 患者の年齢は、3疾患とも1歳児が最も多く、ついで、2歳、3歳、4歳の順で、0歳は4〜5歳とほぼ同程度の患者数です。また、咽頭結膜熱は4月から徐々に増加して6月に流行のピークがあり、ヘルパンギーナと手足口病は6月頃から急激に増加し、7月に流行のピークがあります (県感染症情報センター)